

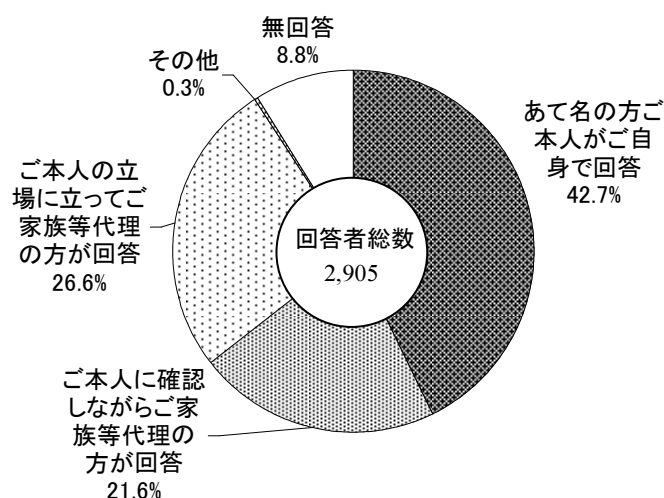
第3章 要支援・要介護認定者調査の結果

I 回答者の属性

1 調査の回答者

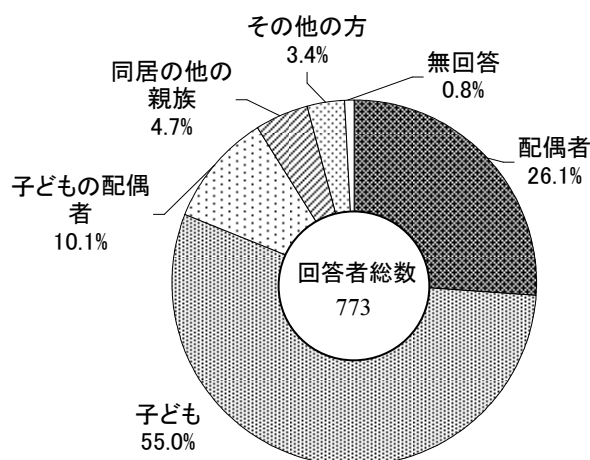
問1 この調査票はどなたが回答されますか。

調査票の回答者は、「あて名の方ご本人がご自身で回答」が42.7%、「ご本人に確認しながらご家族等代理の方が回答」が21.6%、「ご本人の立場に立ってご家族等代理の方が回答」が26.6%であり、本人による回答が6割半ばを占めている。



【本人の立場に立って家族等代理の方が回答した場合の回答者】

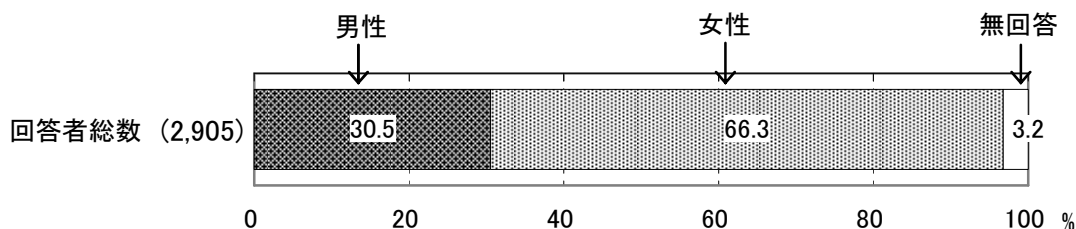
本人の立場に立って家族等代理の方が回答した場合の回答者は、「配偶者」が26.1%、「子ども」が55.0%、「子どもの配偶者」が10.1%、「同居の他の親族」が4.7%となっている。



2 性別

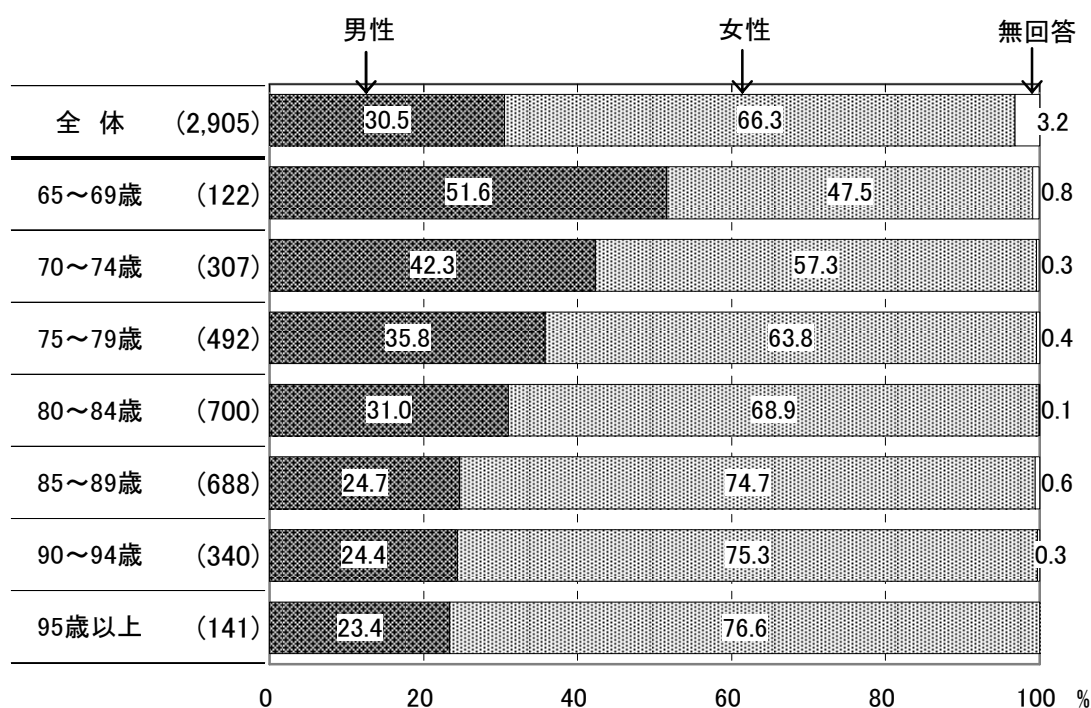
問2 性別をお答えください。

性別は、「男性」が 30.5%、「女性」が 66.3%と女性が男性の2倍以上となっている。



【年齢区分別／性別】

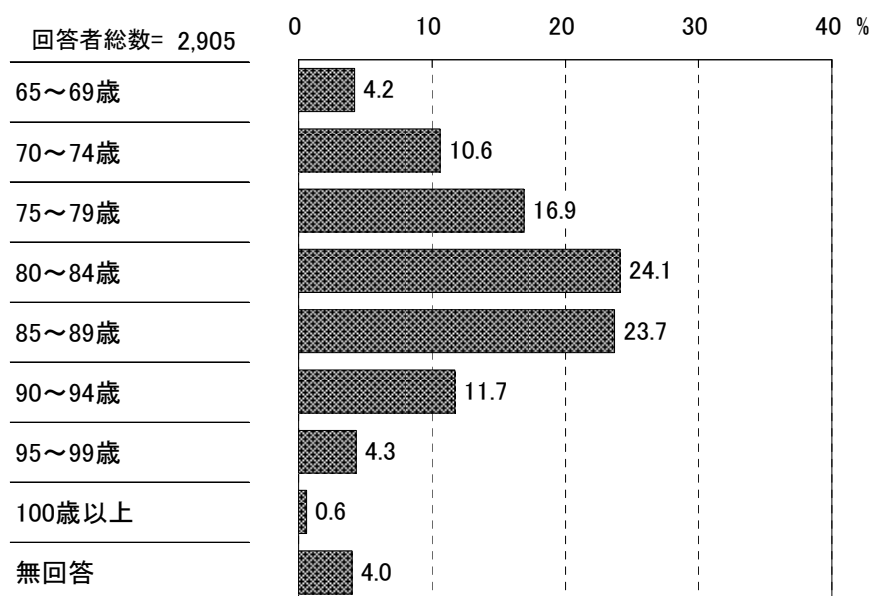
年齢区分別にみると、“65～69歳”では男性が5割強と女性をやや上回っているが、70歳以上では年齢区分が上がるにつれて女性の占める割合が高くなり、85歳以上では女性が7割半ばを占めている。



3 年齢

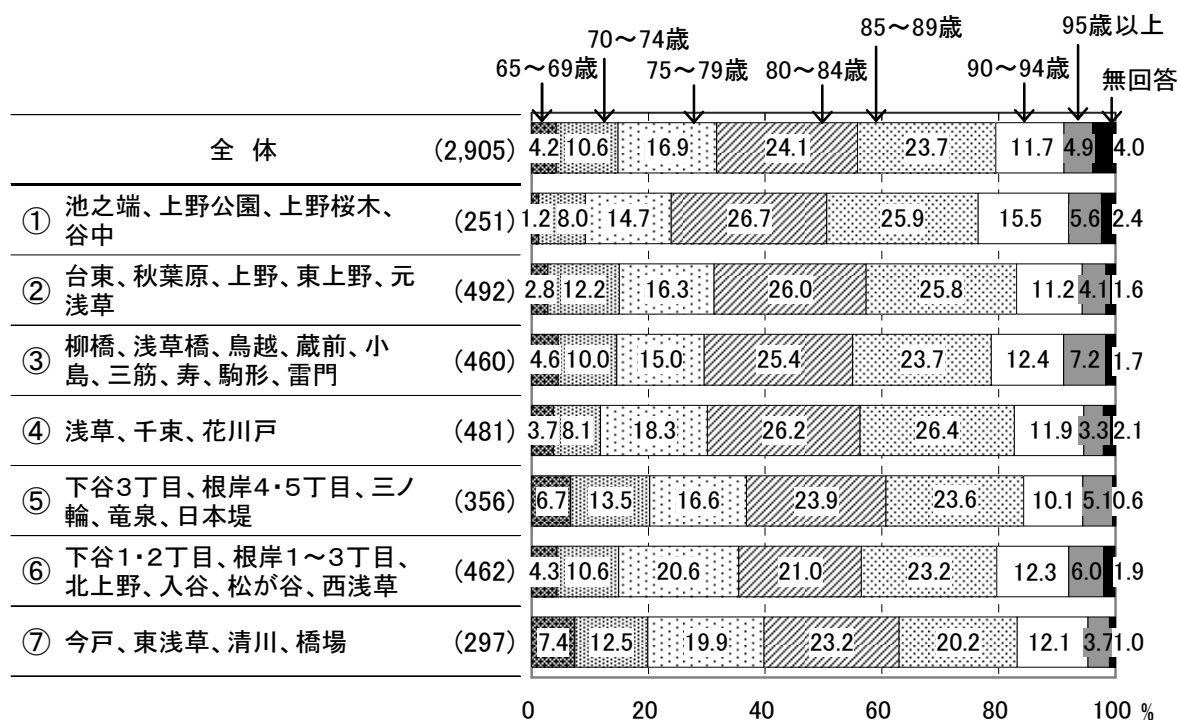
問3 年齢はおいくつですか。

年齢は、「80歳～84歳」が24.1%と最も多く、次いで「85歳～89歳」が23.7%、「75歳～79歳」が16.9%、「90歳～94歳」が11.7%などとなっており、75歳以上の後期高齢者が81.3%と8割以上を占め、65歳から74歳までの前期高齢者は14.8%となっている。



【居住地域別／年齢区分】

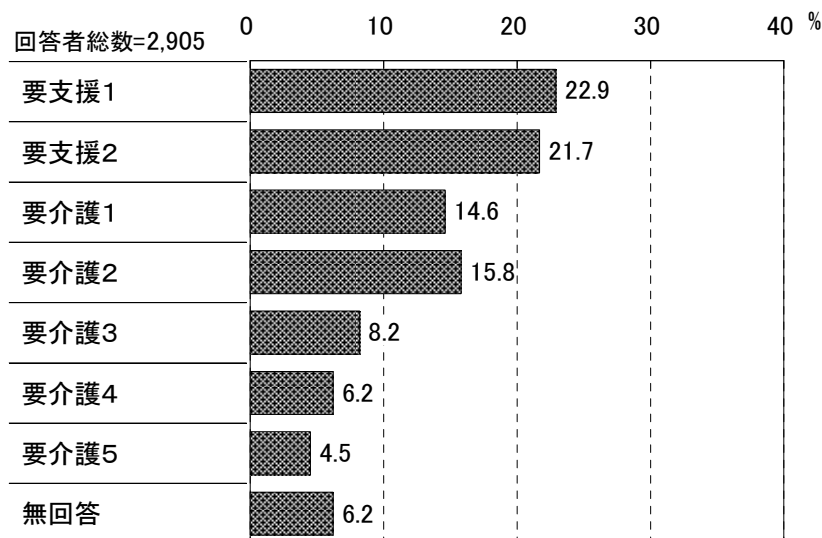
居住地域別にみると、⑤と⑦の地域で65歳から74歳が2割前後と他の地域と比較して割合が高い一方、①の地域で85歳以上がほぼ5割となっている。



4 要介護度

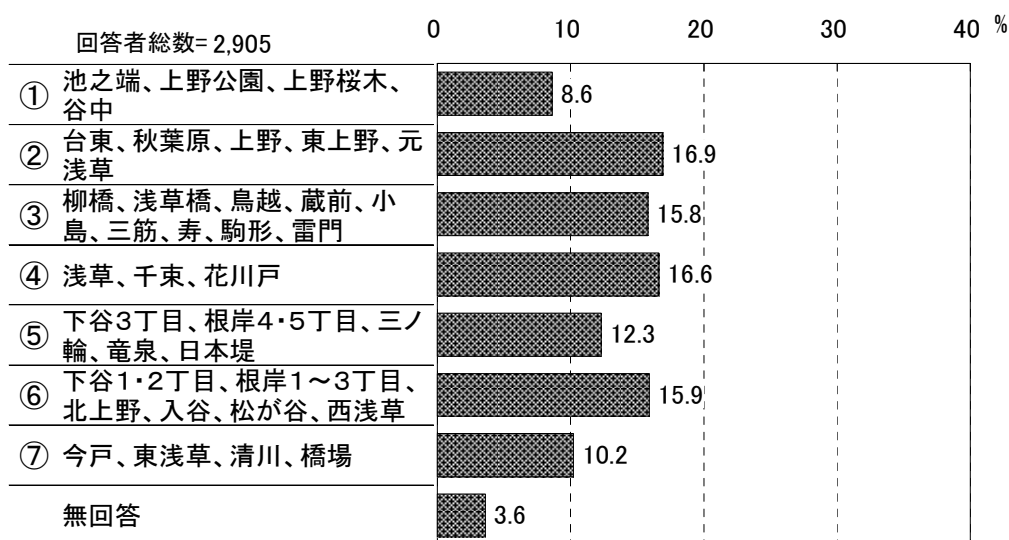
問4 現在の要介護（要支援）度を選んでください。

要介護度の分布は、要介護2までで75.0%と全体の3/4を占めており、「要支援1」が22.9%と最も多く、次いで「要支援2」が21.7%、「要介護2」が15.8%、「要介護1」が14.6%などとなっている。



5 居住地域

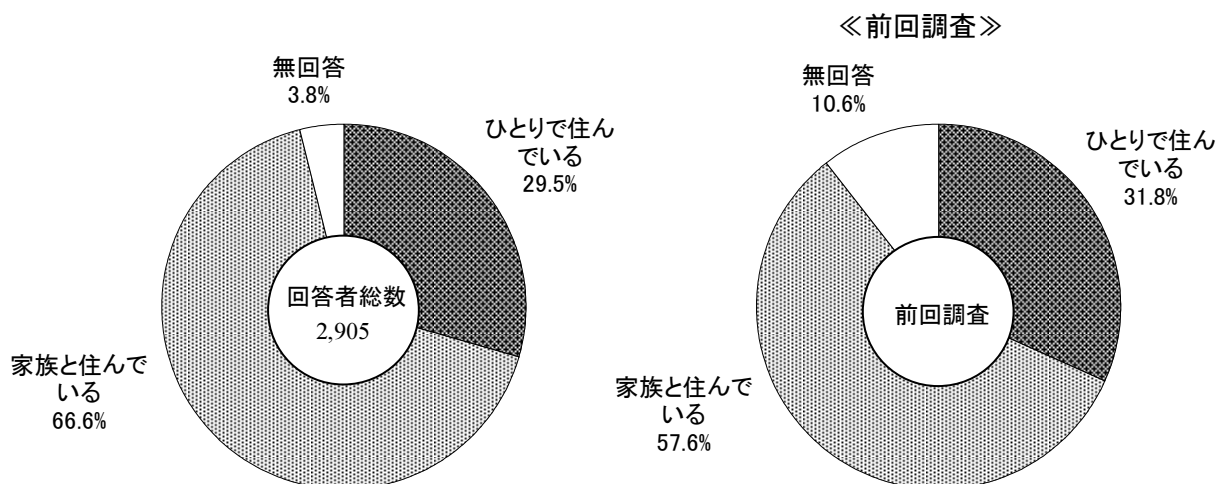
問5 お住まいはどちらですか。



6 居住環境

問6 現在、同居されているご家族はあなたを含めて何人ですか。

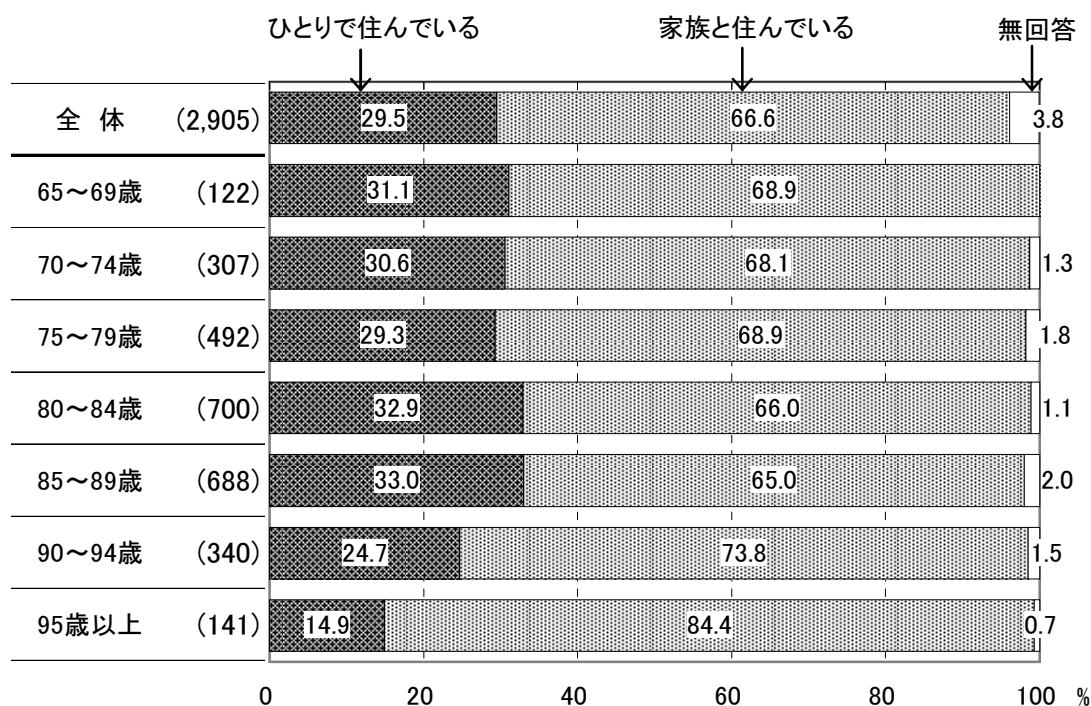
居住環境は、「ひとりで住んでいる」が29.5%、「家族と住んでいる」が66.6%であり、ひとり暮らしはほぼ3割を占め、前回調査とほぼ同様の結果となっている。



※ 前回調査の選択肢は「ひとり暮らし」「夫婦のみ（ともに65歳以上）」「夫婦のみ（どちらかが65歳以上）」「二世帯住宅等その他の世帯と同居」

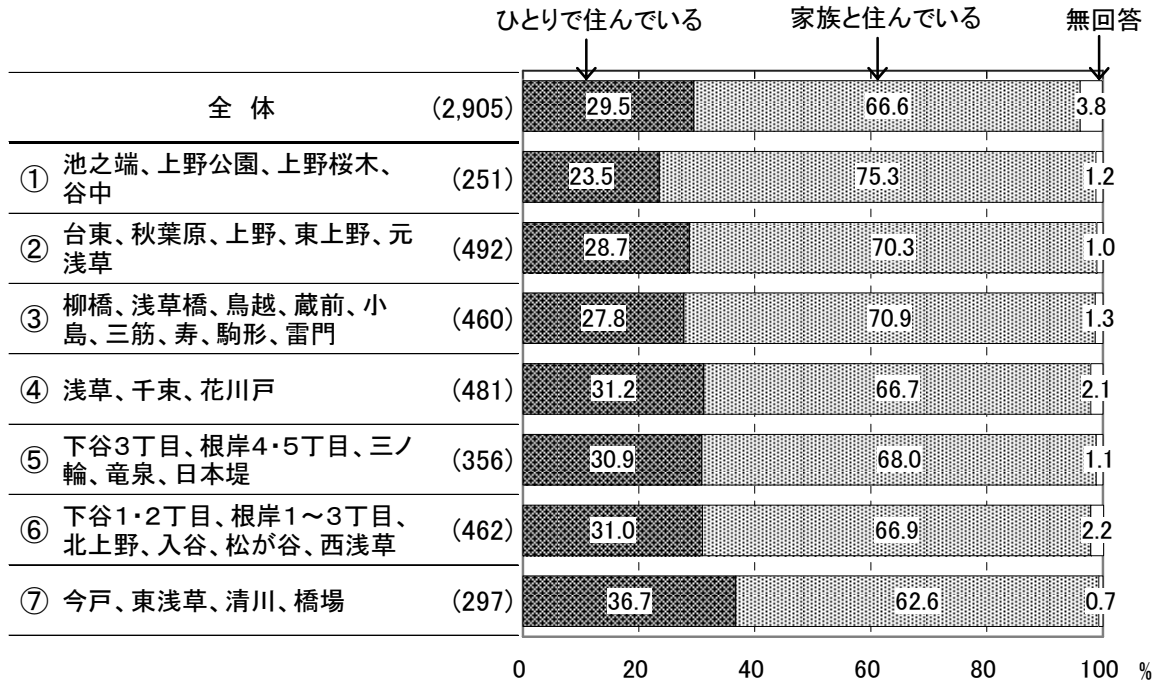
【年齢区分別／居住環境】

年齢区分別にみると、“95歳以上”では、「家族と住んでいる」割合が他の年齢区分と比較して高くなっている。



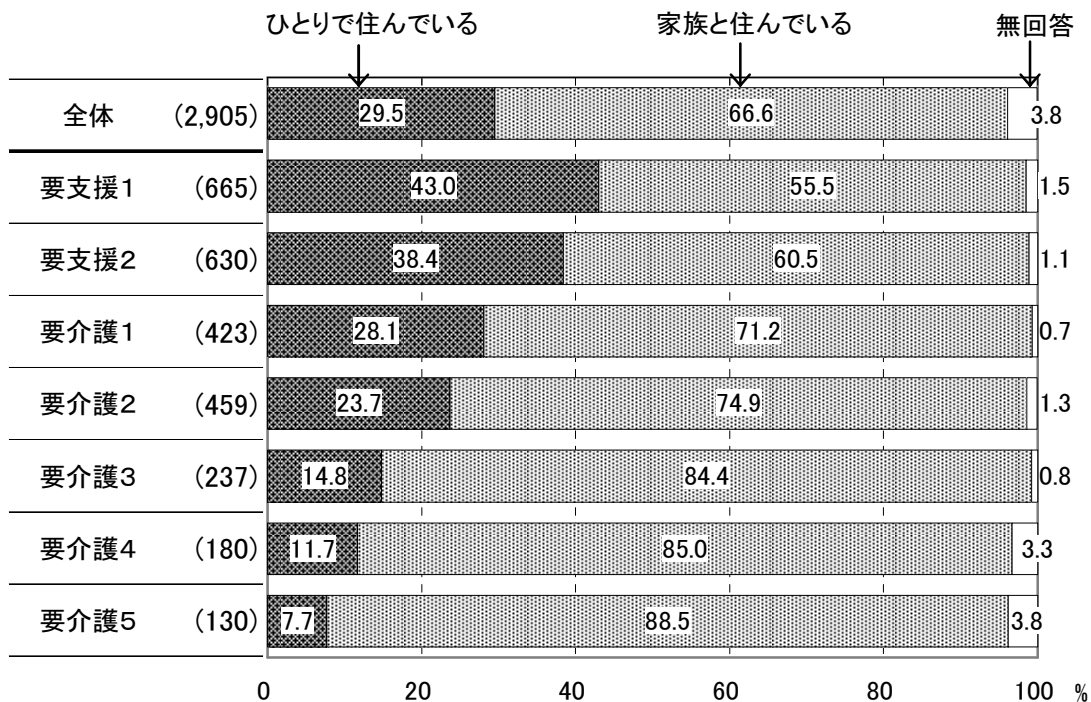
【居住地域別／居住環境】

居住地域別にみると、各地域とも全体と比較して特に顕著な差はみられないが、ひとり暮らしの割合が最も高い⑦の地域と最も低い①の地域とでは 10 ポイント以上の差がみられる。



【要介護度別／居住環境】

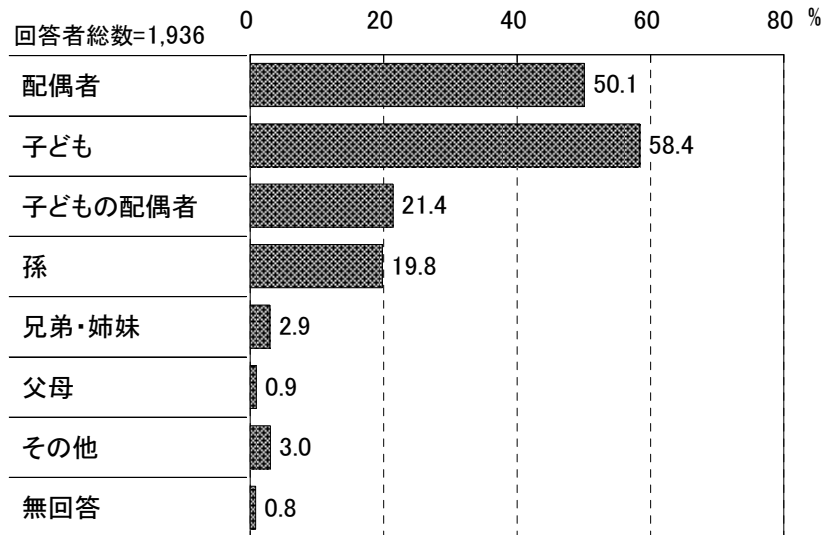
要介護度別にみると、要介護度が上がるにつれてひとり暮らしの占める割合が低くなり、“要介護3～5”では1割前後となっている。



問6-1 問6で「家族と住んでいる」と答えた方におうかがいします。
 現在、同居されているご家族はどなたですか。

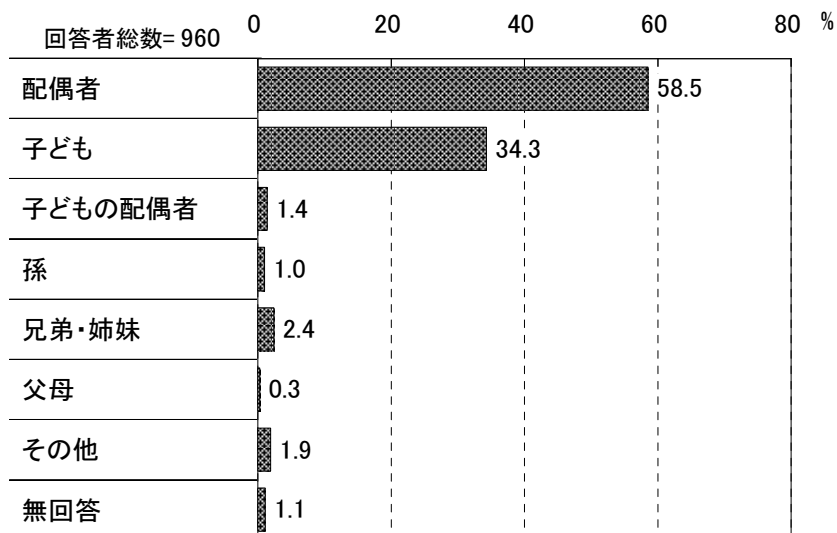
(あてはまるものすべてに○)

同居している家族は、「子ども」が58.4%と最も多く、次いで「配偶者」が50.1%、「子どもの配偶者」が21.4%、「孫」が19.8%などとなっている。



【二人暮らしの内訳】

二人暮らしの内訳は、「配偶者」が58.5%と最も多く、次いで「子ども」が34.3%などとなっている。



【年齢区分別／同居家族の内訳】

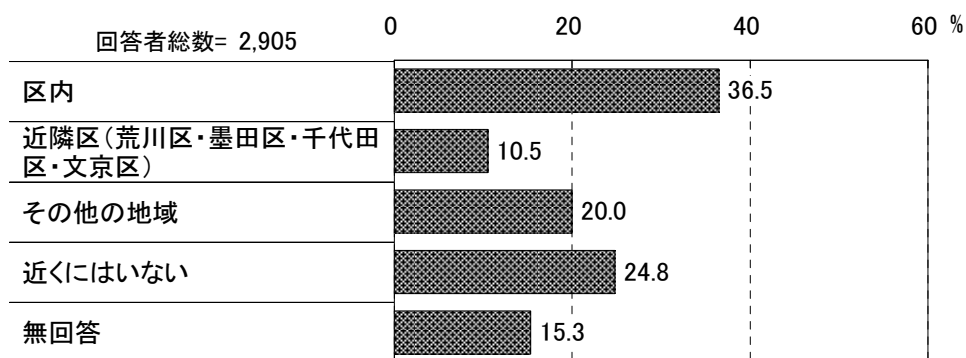
年齢区分別にみると、配偶者と同居している方は、65歳から79歳では7割を超えており、年齢区分が上がるにつれて、その割合は低下する。

一方、子どもと同居している方は、“90～94歳”ではほぼ8割となり、95歳以上ではさらに割合が高くなっている。また、子どもの配偶者や孫と同居している方についても85歳以上では2割を超え、他の年齢区分と比べて割合が高くなっている。

		(%)							
		配偶者	子ども	子どもの配偶者	孫	兄弟・姉妹	父母	その他	無回答
		全体	1,936	50.1	58.4	21.4	19.8	2.9	0.9
65～69歳	84	79.8	45.2	1.2	4.8	7.1	7.1	2.4	0.0
70～74歳	209	70.8	43.1	5.3	8.1	3.8	2.9	2.9	2.4
75～79歳	339	72.3	46.6	14.5	13.9	2.7	0.3	2.4	0.3
80～84歳	462	58.9	52.4	19.3	22.1	3.2	0.2	2.8	1.1
85～89歳	447	37.4	64.2	28.0	22.6	2.7	0.2	2.2	0.7
90～94歳	251	19.9	79.7	38.2	30.7	1.6	0.4	4.8	0.0
95歳以上	119	10.9	85.7	33.6	26.1	0.0	1.7	5.9	0.0

問6-2 近く（1時間以内で行き来できる場所）にお住まいのご家族はいますか。（あてはまるものすべてに○）

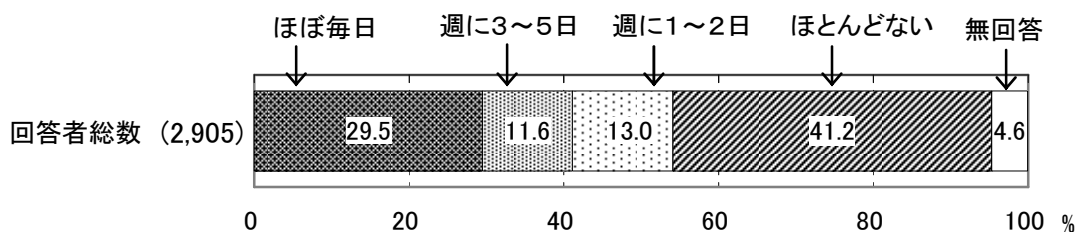
近くに住んでいる家族は、「区内」が36.5%と最も多く、「近隣区（荒川区・墨田区・千代田区・文京区）」が10.5%、「その他の地域」が20.0%となっている。また、「近くにはいない」は24.8%と2番目に多い回答となっている。



7 日中一人で過ごす頻度

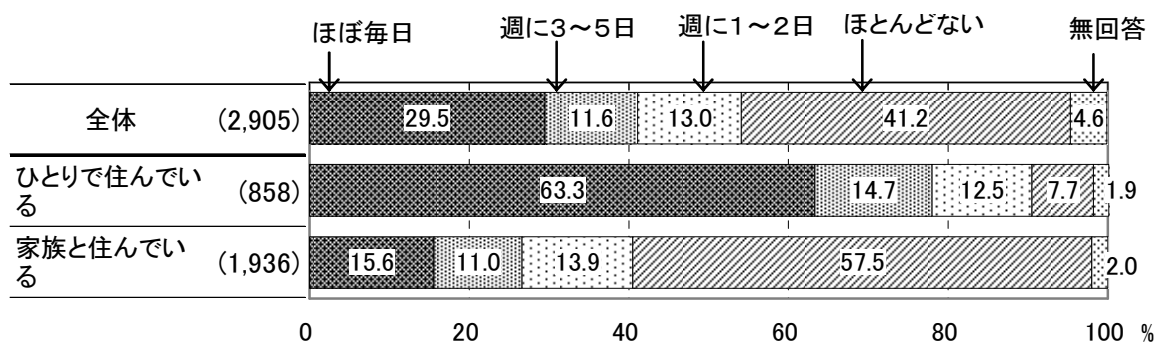
問7 日中、一人で過ごすことがありますか。

日中一人で過ごす頻度は、「ほとんどない」と回答している方が41.2%の一方で、「ほぼ毎日」一人で過ごしている方は29.5%となっている。また、「週に1～2日」は13.0%、「週に3～5日」は11.6%となっている。



【居住環境別／日中一人で過ごす頻度】

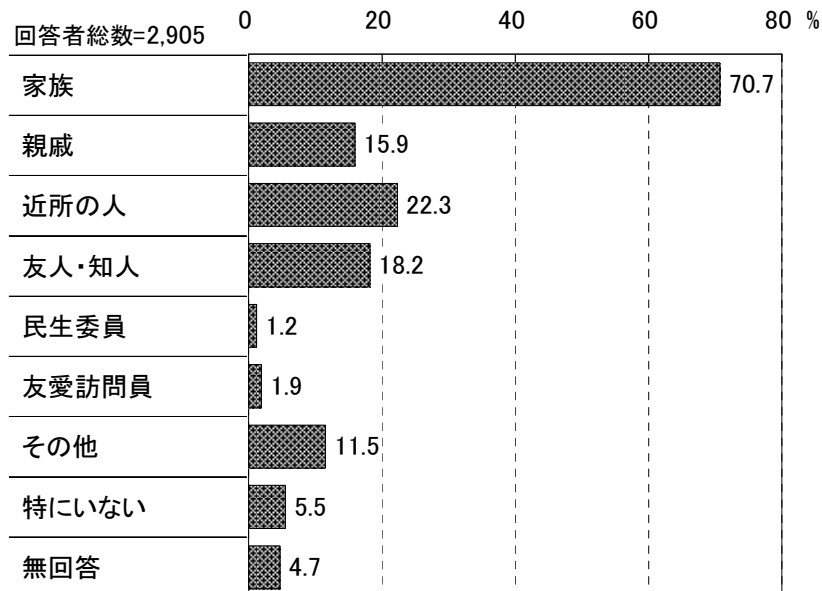
居住環境別にみると、ひとり暮らしの6割強が「ほぼ毎日」日中も一人で過ごしていると回答する一方、“家族と住んでいる”方では一人で過ごすことがほとんどないとの回答が6割弱となっている。



8 週に1回以上声をかけてくれる人

問8 週に1回以上、連絡を取り合う人・声をかけてくれる人はいいますか。
(あてはまるものすべてに○)

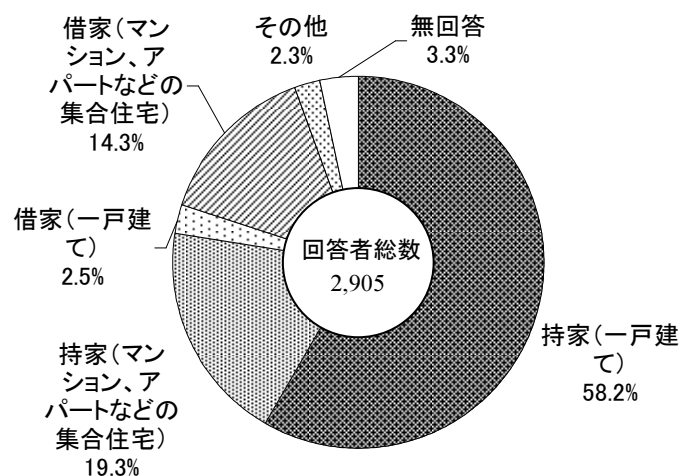
週に1回以上声をかけてくれる人は、「家族」が70.7%と最も多く、次いで「近所の人」が22.3%、「友人・知人」が18.2%などとなっている。



9 住まい

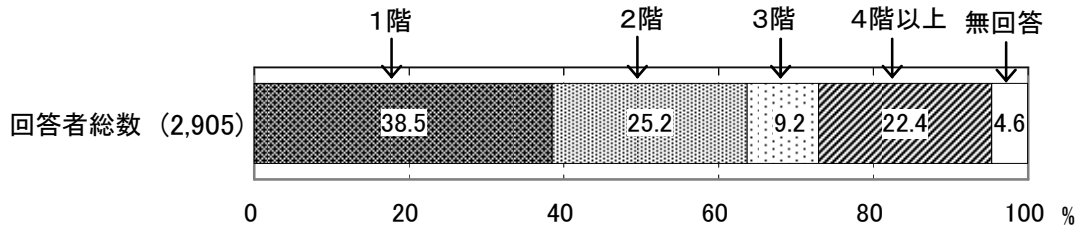
問9 お住まいは次のうちどれですか。

住まいの形態は、「持家（一戸建て）」が58.2%と6割弱を占め、「持家（マンション、アパートなどの集合住宅）」が19.3%、「借家（一戸建て）」が2.5%、「借家（マンション、アパートなどの集合住宅）」が14.3%となっている。住まいの自己所有の割合は8割近くとなっている。また、3割強が集合住宅に住んでいる。



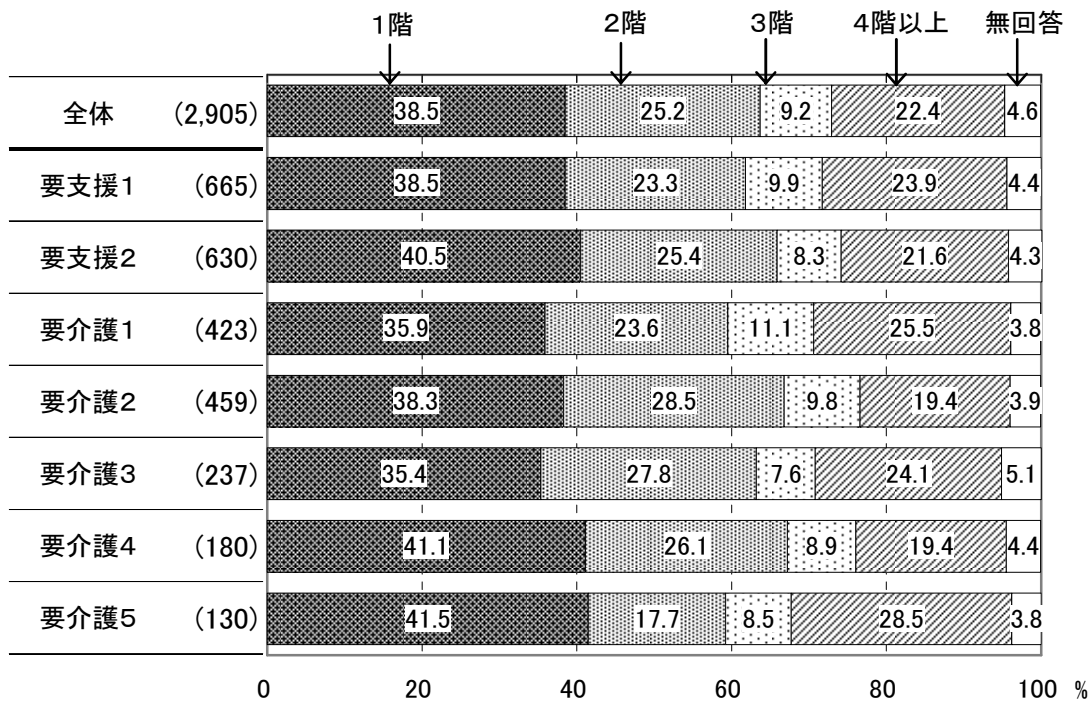
問9-1 ふだん、1日の中で主に過ごしている部屋は何階ですか。

主に過ごしている部屋の階数は、「1階」が38.5%、「2階」が25.2%、「3階」が9.2%、「4階以上」が22.4%となっており、6割近くが主に2階以上で1日を過ごしている。



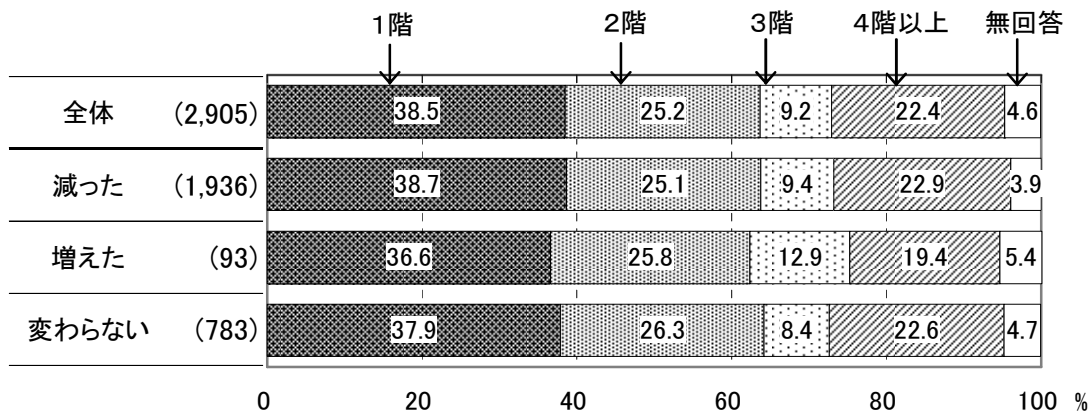
【要介護度別／主に過ごしている部屋の階数】

要介護度別にみると、主に過ごしている部屋の階数では特に顕著な差はみられない。



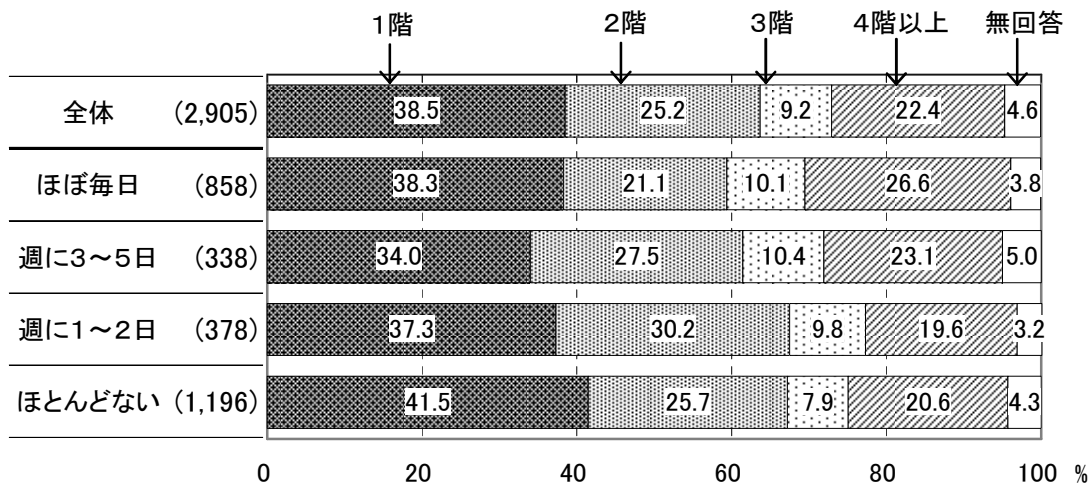
【昨年との外出頻度の比較別／主に過ごしている部屋の階数】

昨年との外出頻度の比較別にみると、主に過ごしている部屋の階数ではあまり顕著な差はみられない。



【日中一人で過ごす頻度別／主に過ごしている部屋の階数】

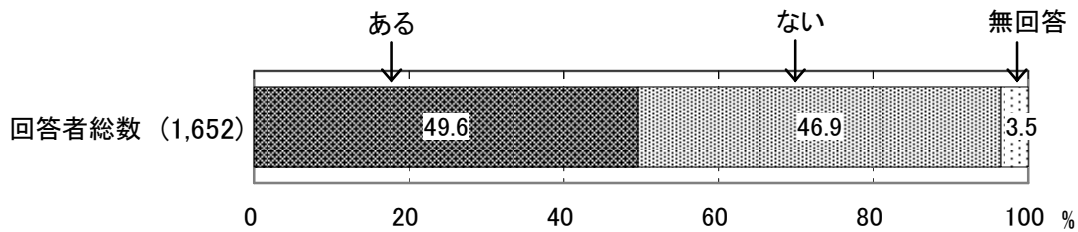
日中一人で過ごす頻度別にみると、一人で過ごすことが「ほとんどない」の4割強が主に「1階」で1日を過ごしており、他と比較してやや割合が高くなっている。



問9-2 問9-1で「2階」「3階」「4階以上」と答えた方におうかがいします。

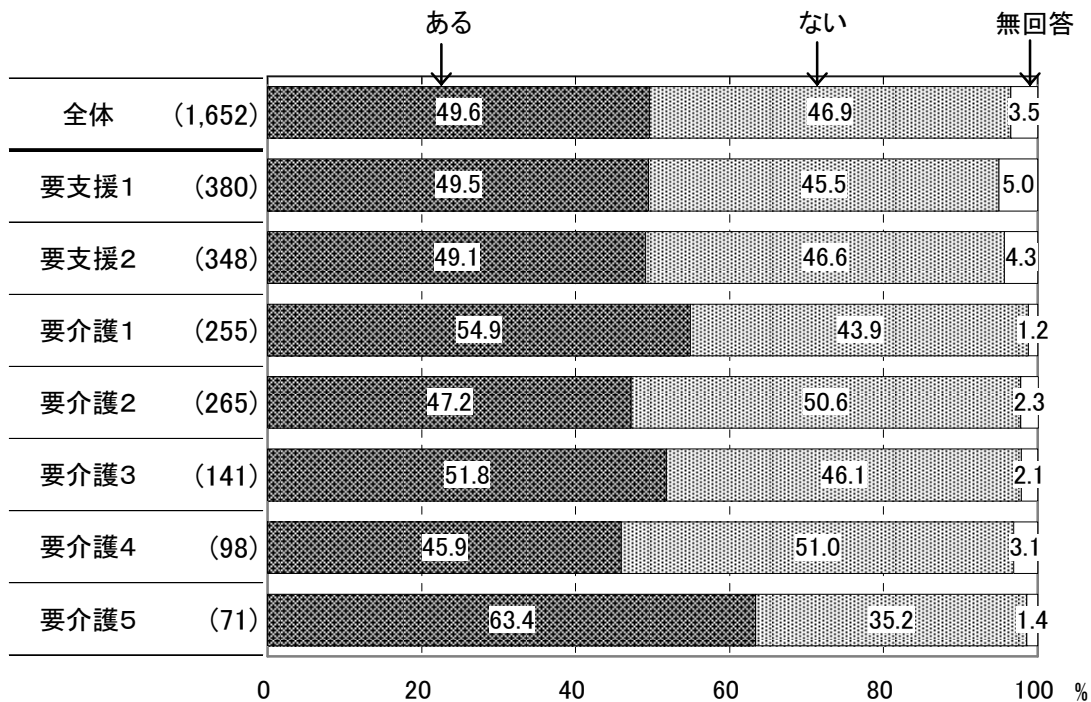
お住まいにエレベーターはありますか。

主に2階以上で過ごしている方の住まいにエレベーターがあるかは、「ある」が49.6%、「ない」が46.9%となっている。



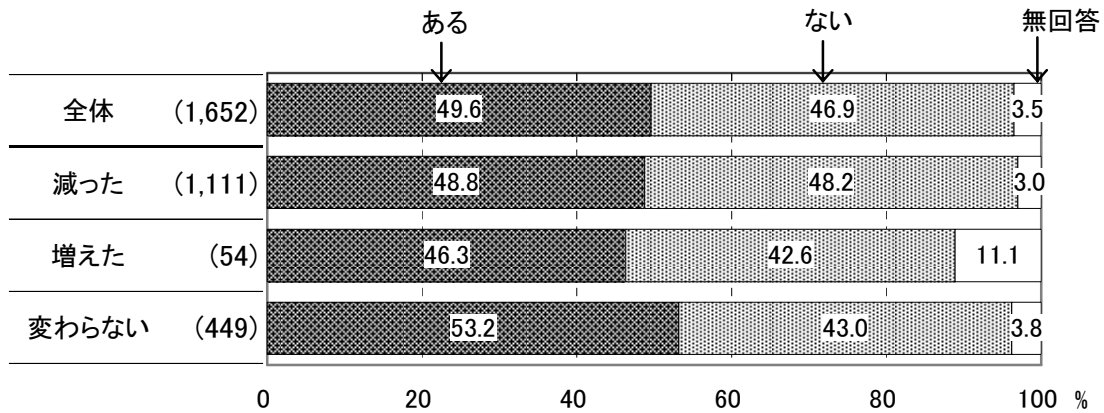
【要介護度別／エレベーターの有無】

要介護度別にみると、“要介護5”の住まいには6割強にエレベーターがあり、他の要介護度と比べてやや割合が高くなっている。



【昨年との外出頻度の比較別／エレベーターの有無】

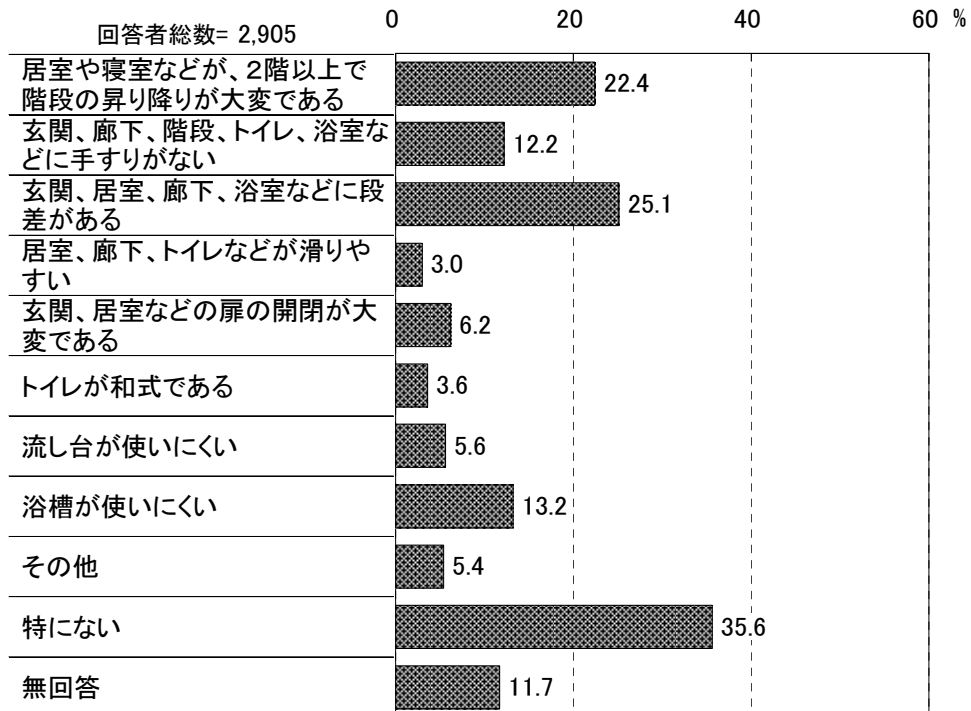
昨年との外出頻度の比較別にみると、エレベーターの有無では特に顕著な差はみられない。



問9-3 お住まいの住宅でお困りのことはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

住宅で困っていることは、「玄関、居室、廊下、浴室などに段差がある」が25.1%、「居室や寝室などが、2階以上で階段の昇り降りが大変である」が22.4%、「浴槽が使いにくい」が13.2%、「玄関、廊下、階段、トイレ、浴室などに手すりがない」が12.2%などとなっている。困っていることは「特にない」という方が35.6%と最も多いものの、2割を超える方が室内の段差や階段昇降に困っていると回答している。



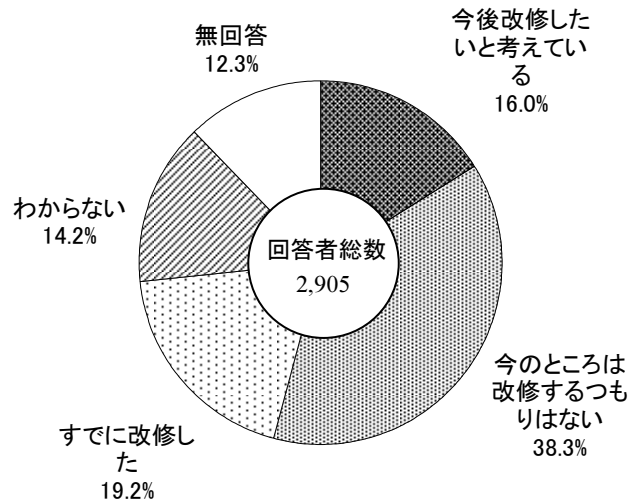
【昨年との外出頻度の比較別／住宅で困っていること】

昨年との外出頻度の比較別では、外出が“減った”方は、階段昇降や玄関などの段差があり困っているとする方の割合が他と比べて高くなっている。

		(%)											
		階段の昇り降りが大変である	居室や寝室などが、2階以上で	玄関、廊下、階段、トイレ、浴室などに手すりがない	玄関、居室、廊下、浴室などに段差がある	居室、廊下、トイレなどが滑りやすい	玄関、居室などの扉の開閉が大変である	トイレが和式である	流し台が使いにくい	浴槽が使いにくい	その他	特にない	無回答
全体	2,905	22.4	12.2	25.1	3.0	6.2	3.6	5.6	13.2	5.4	35.6	11.7	
減った	1,936	25.1	13.9	27.3	3.4	6.8	4.0	6.1	15.3	5.5	32.3	11.0	
増えた	93	16.1	10.8	17.2	0.0	3.2	3.2	5.4	11.8	7.5	32.3	16.1	
変わらない	783	17.6	8.9	22.2	2.4	5.4	2.7	5.0	8.9	5.1	44.3	10.2	

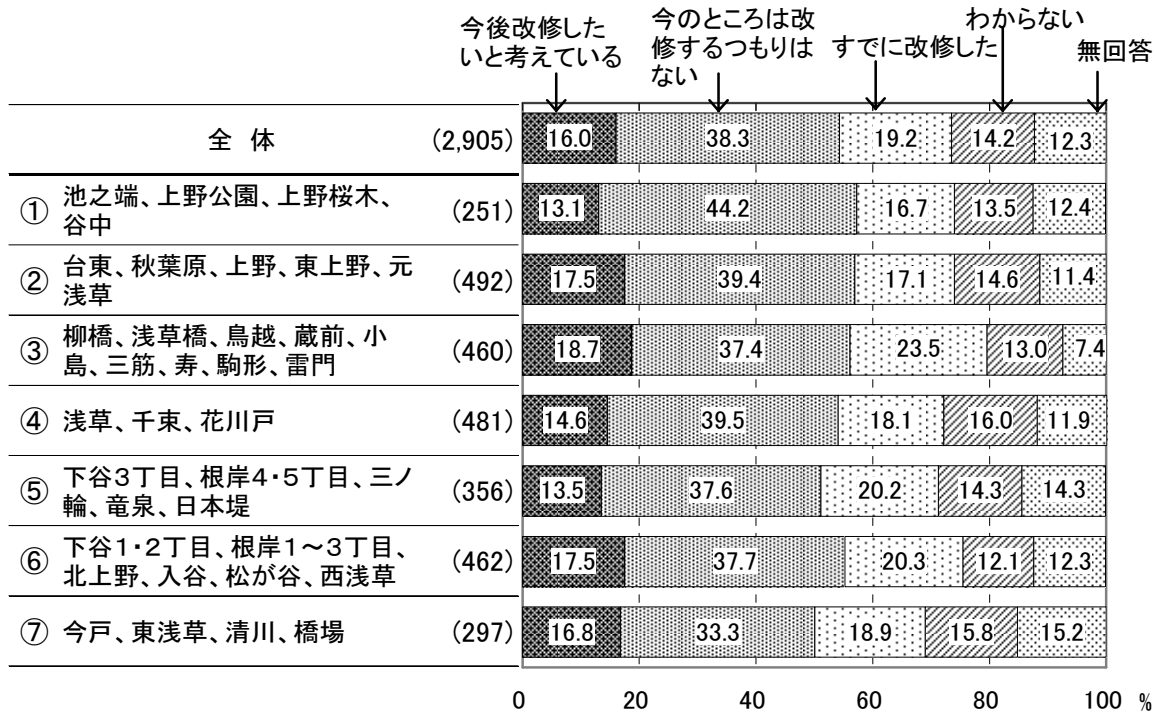
問9-4 お住まいの住宅を改修したいと考えていますか。

今後の住宅改修意向は、「今後改修したいと考えている」が16.0%、「今のところは改修するつもりはない」が38.3%、「すでに改修した」が19.2%である。



【居住地域別／住宅改修の意向】

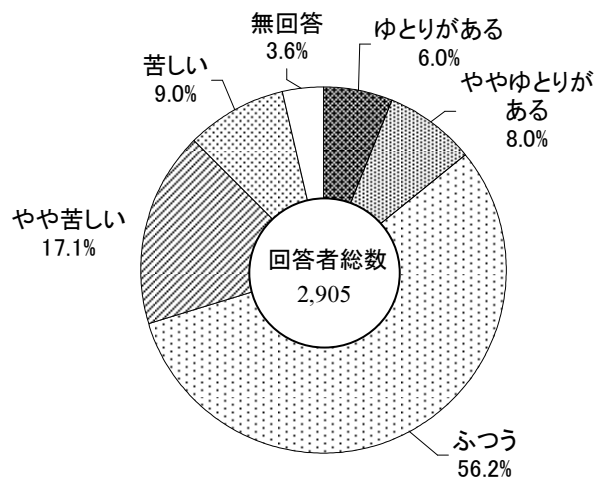
居住地域別では、②、③、⑥、⑦の地域では「今後改修したいと考えている」方の割合が全区平均を上回っている。



10 現在の暮らし向き

問 10 現在の暮らし向きについて、どのように感じていますか。

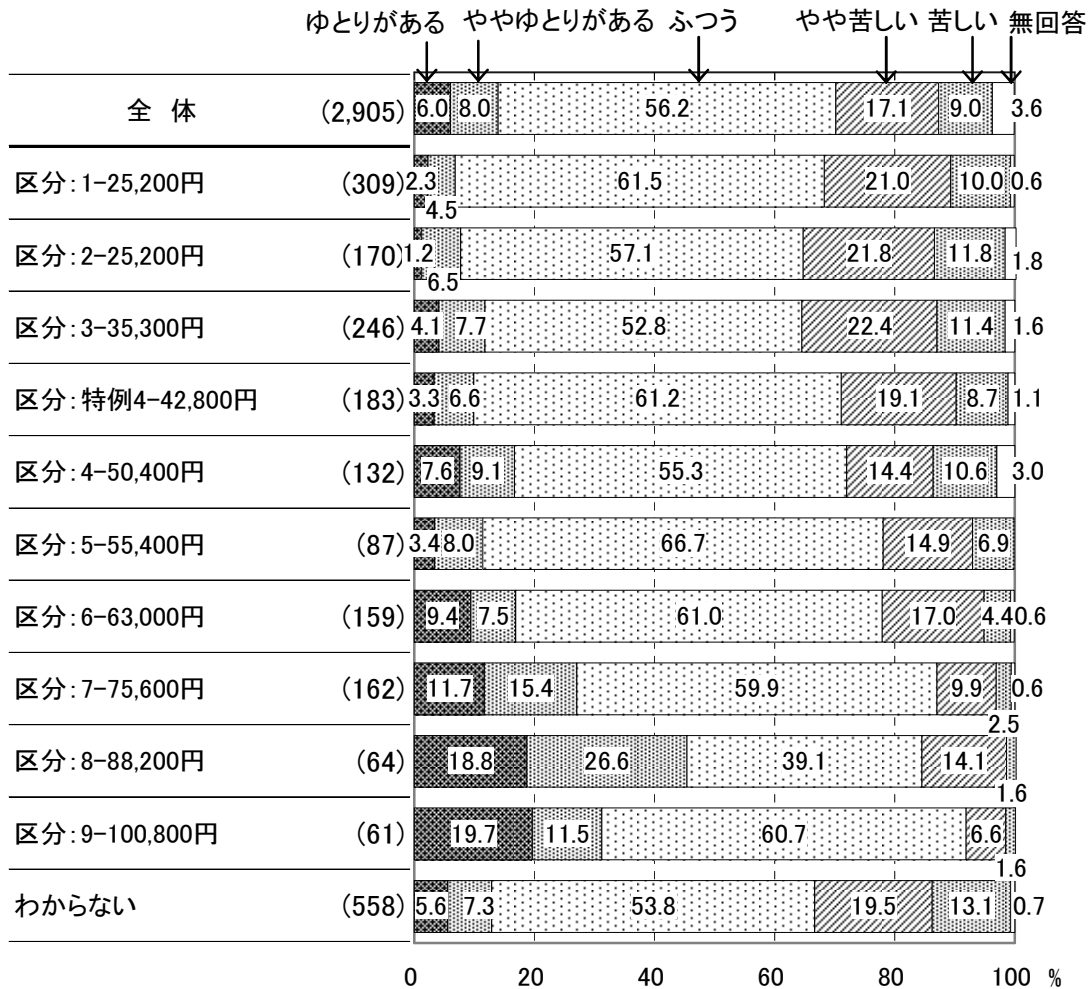
現在の暮らし向きは、「ふつう」が56.2%と半数を超え、「ゆとりがある」が6.0%、「ややゆとりがある」が8.0%、「やや苦しい」が17.1%、「苦しい」が9.0%となっている。



【介護保険料区分別／現在の暮らし向き】

介護保険料区分別にみると、“区分4”と区分6以上では「ゆとりがある」と「ややゆとりがある」を合わせた割合が、全体の割合よりも高い。

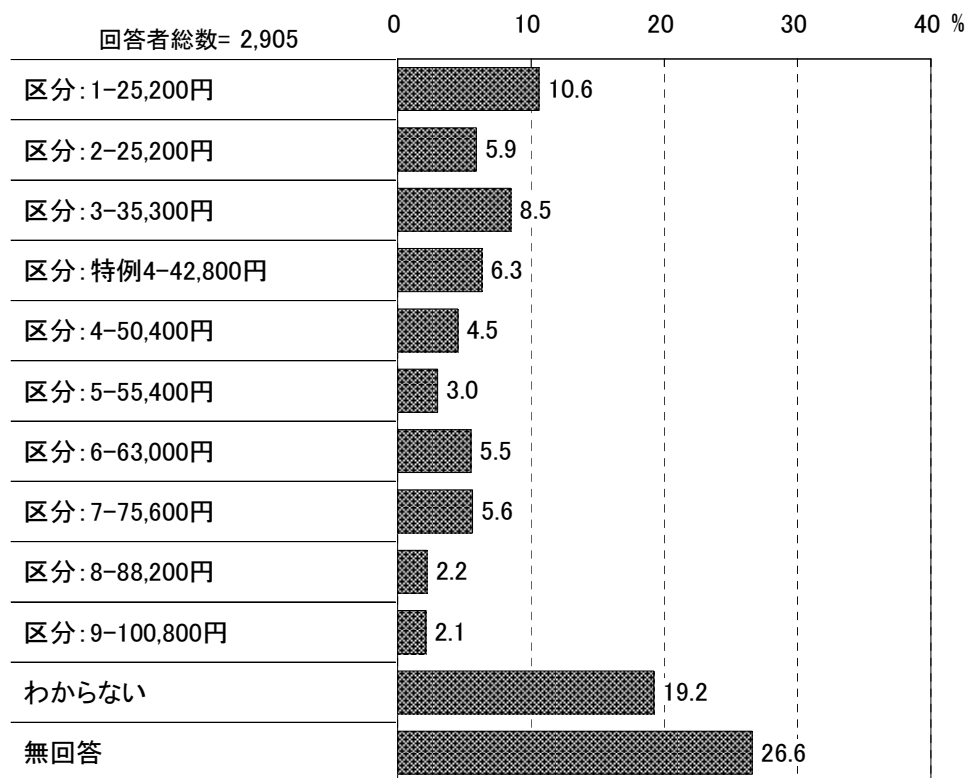
一方、“区分1”から“区分3”では「苦しい」と「やや苦しい」を合わせると約3割となる。



11 介護保険料額

問 11 あなたの平成 22 年度の介護保険料額を、下の 1 から 10 の番号でお答えください。

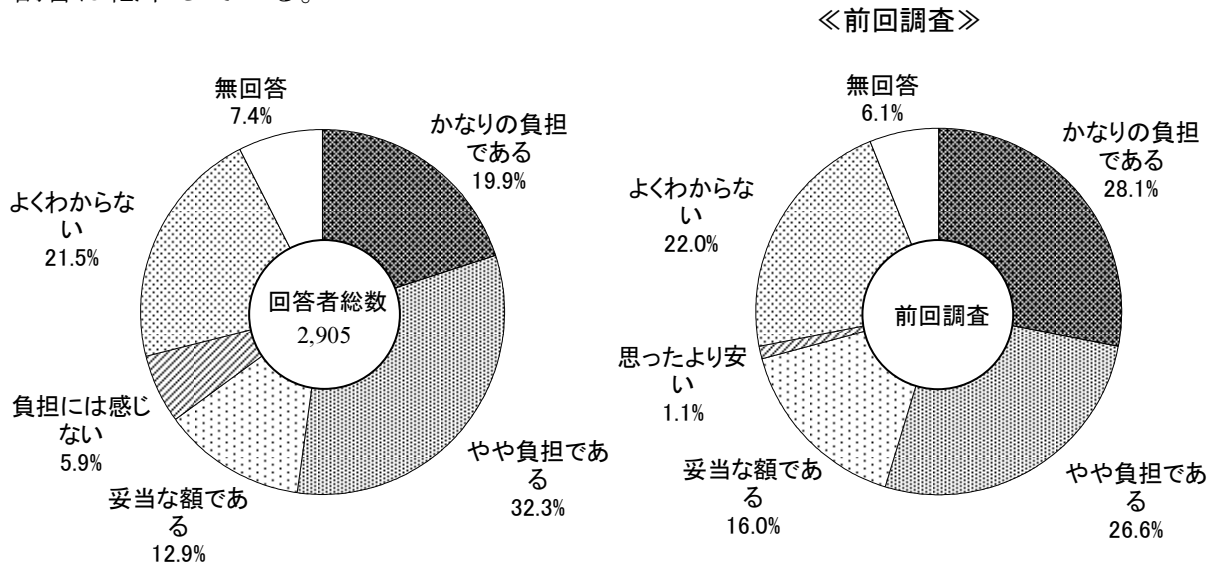
介護保険料額は、「区分：1-25,200 円」が 10.6%、「区分：3-35,300 円」が 8.5% などとなっている。



12 介護保険料額の負担感

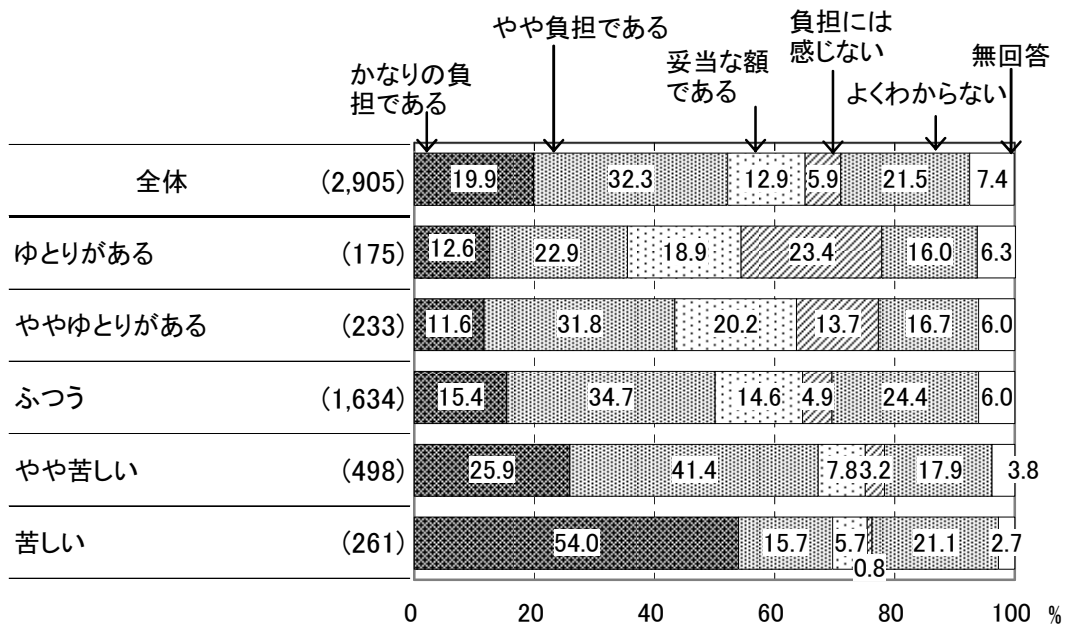
問 12 あなたは、介護保険料額をどのように感じていますか。

介護保険料額の負担感は、「かなりの負担である」が19.9%、「やや負担である」が32.3%、「妥当な額である」が12.9%、「負担には感じない」が5.9%となっている。「かなりの負担である」と「やや負担である」を合わせると52.2%が負担と感じており、前回調査の54.7%とほぼ同様の結果ではあるものの、「かなりの負担である」の割合は低下している。



【現在の暮らし向き別／介護保険料額の負担感】

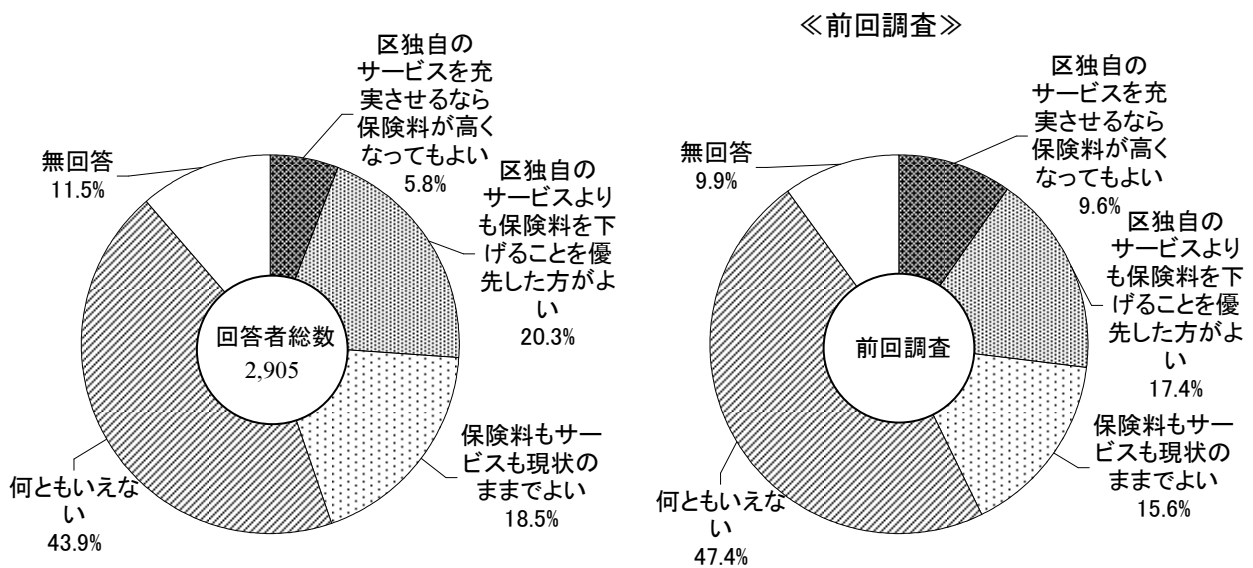
現在の暮らし向き別にみると、介護保険料額の負担感は暮らし向きが苦しくなるにつれて上昇し、「かなりの負担である」と「やや負担である」を合わせた割合は“やや苦しい”で7割弱、“苦しい”で約7割となっている。



13 区独自の介護保険サービス

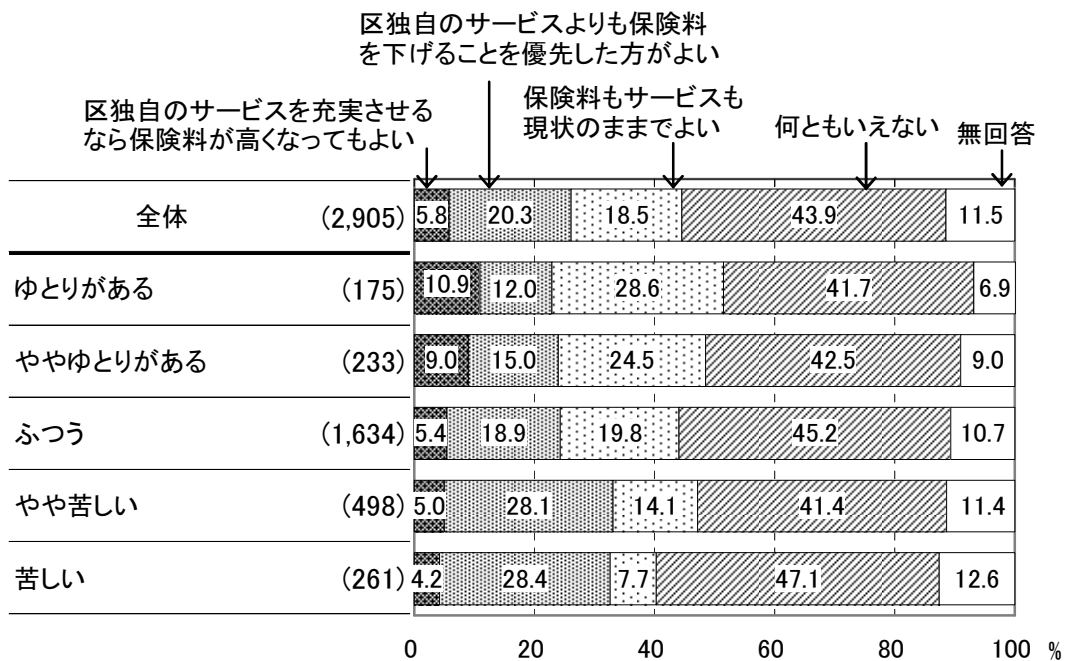
問 13 区が独自で実施するサービス（台東区では施設入浴サービスを実施）があります。区独自のサービスについて、あなたのお考えをおうかがいします。

区独自の介護保険サービスは、「区独自のサービスを充実させるなら保険料が高くなってもよい」が5.8%、「区独自のサービスよりも保険料を下げることを優先した方がよい」が20.3%、「保険料もサービスも現状のままでよい」が18.5%であり、前回調査と比較して「区独自のサービスを充実させるなら保険料が高くなってもよい」の割合がやや低くなった。



【現在の暮らし向き別／区独自の介護保険サービスに対する考え方】

現在の暮らし向き別では、暮らし向きが“苦しい”方では、「区独自のサービスよりも保険料を下げることを優先した方がよい」の割合が他と比較して高くなっている。



【介護保険料額の負担感別／区独自の介護保険サービスに対する考え方】

介護保険料額の負担感別にみると、負担感が高いほど、「区独自のサービスよりも保険料を下げることを優先した方がよい」の割合が高く、“かなりの負担である”で4割半ばである。一方、“妥当な額である”や“負担には感じない”では、「保険料もサービスも現状のままでよい」や保険料が高くなってもよいとの回答割合が高くなっている。

